公益財団法人　アダチ伝統木版画技術保存財団

事　業　報　告　書

令和３年度

令和３年度事業報告書
（自 ： 令和 ３年４月 １日）
（至 ： 令和 ４年３月 31 日）

Ⅰ. 事業の状況

令和３年度において実施された各事業を定款第３条に定める事業内容の項目別により、次のように報告を行うものである。

〈事業内容〉
（１） 伝統木版画の制作技術等に関する調査研究等の奨励

① 研究等奨励交付事業

本事業のうち、絵画部門(木版画の版下絵等の作品公募)に焦点をあてた公募（「アダチ UKIYOE 大賞」）の第 13 回目を既存の奨励賞募集と共に実施した。
アダチ UKIYOE 大賞に関しては、作品の公募期間を令和３年８月７日から令和３年 12 月 25 日までの約５ヶ月間とした。公募の告知は、コロナウイルス感染拡大の影響から、例年実施していた全国の美術館や主な美術系学校でのポスター･チラシの設置は中止とし、公募専門の雑誌やホームページ及び本財団ホームページなどインターネット上での告知を中心に実施した。その結果、41 件の応募があり令和４年２月５日に開催された審査委員会にて、大賞１件（奨励金総額 30 万円）・優秀賞１件（奨励金総額 15 万円）・佳作２件（奨励金総額各５万円）を選考決定した。第 13 回目も昨年度同様、「現代の浮世絵を描く才能のあるアーティストを発掘する」という公募趣旨に沿って、制作した作品を紹介するポートフォリオのみの募集をおこない、審査を実施した。応募者の画風や力量、日頃の制作活動の成果により重点を置いて総合的に審査をし、現代の浮世絵師としての可能性を秘めた方々を選出することができた。奨励金交付式は、コロナウイルス感染拡大のため、昨年度に続き授与式を中止とし、奨励対象者への交付認定書ならびに奨励金は、郵送にて授与した。受賞作品の２作品は、令和４年度に木版画として制作され、現代の浮世絵として誕生することとなる。
既存の奨励賞については、伝統木版画の研究者ならびに関係者各位からも奨励テーマの推薦を受けると共に、広範囲に認知度の高揚をはかった。しかし、公募期間中に奨励テーマの応募や推薦は皆無であったため、本年度奨励対象該当者はなしとなった。

◆令和３年度　アダチ UKIYOE 大賞審査委員（４名）

小山登美夫	ギャラリスト	
三井田盛一郎	東京芸術大学 美術学部絵画科 教授	
山下裕二	明治学院大学 文学部芸術学科 教授	（敬称略・五十音順）
安達以乍牟	本財団理事長	

審査風景

第 13 回アダチ UKIYOE 大賞受賞作品

《大賞》　　賞金 30 万円＋木版画として制作

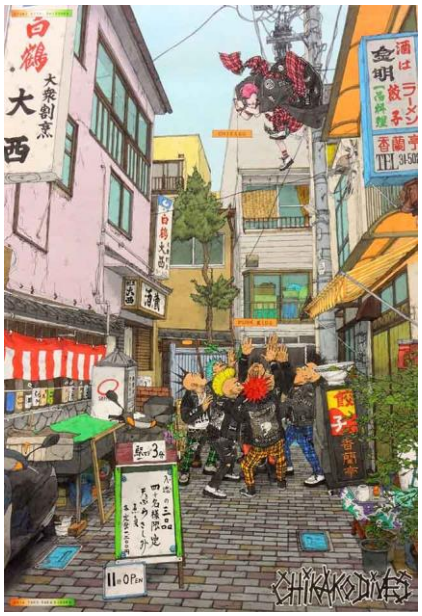
・奨励対象者　　榊原　太朗

《優秀賞》　　賞金 15 万円＋木版画として制作

・奨励対象者　　沖谷　晃司

《佳作》　　賞金 5 万円

・奨励対象者　　小林　隆之　　大久保　如彌



Chikako Dives(Punk Rock)2019 年
大賞 榊原太朗 ポートフォリオ作品から

赤いセーター 2021 年
優秀賞 沖谷晃司 ポートフォリオ作品から

〈事業内容〉
（２）伝統木版画の制作技術者の育成事業

②後継者育成事業

当該事業のうち、伝統木版画の制作技術等の保存および育成に取り組んでいる現行唯一の任意団体「浮世絵木版画彫摺技術保存協会」に対する育成金交付については、育成対象者が無かったため本年度も実施を見送った。
一方、伝統木版画に強い興味と適正能力をもつ学生等を対象として、総合的に高度な専門技術を習得させることを意図した「高度技術者研修」事業について本年度は、前期(令和３年４月～令和３年 10 月)に１名の高度技術研修生の研修(彫師)を実施した。また、第 25 期高度技術研修生を採用するにあたっては、令和３年６月から令和３年 12 月 25 日まで募集を行った。募集の告知は、本財団ホームページ及び伝統工芸職人の求人サイト「四季の美」での紹介、全国の美術系大学および専門学校や問合わせのあった個人に対して応募要項を送付するなどして行った。その結果 13 名の応募者があり、書類選考及び面接を行った結果、第 25 期高度技術研修生(前期・摺師) 1 名の採用をすることとした。

◆第 24 期高度技術研修生(前期/彫師)
山下真佳（22 歳　女性）

◆第 25 期高度技術研修生(前期/摺師)
佐々木文寧（23 歳　女性）

◆技術研修所
東京都新宿区下落合３－13－17

研修生修了式

〈事業内容〉
（３）伝統木版画の制作技術者に関する研修会の開催

③技術実演・研修事業

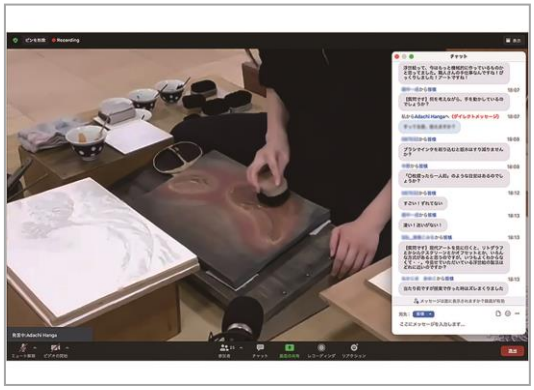
1） 技術実演会

主に大学・専門学校・高校などの教育機関、美術館および博物館などの文化施設を対象として、伝統木版画の制作技術等に関する啓蒙普及をはかるために、これまで本財団の理事ならびに評議員の中より伝統木版画の制作技術等に精通する数名を講師として要請のあった施設に派遣し、「技術実演会」を行ってきた。本年度は、コロナウイルス感染拡大の影響から、有観客での実演会は、一切実施されなかった。一方、コロナ禍での取り組みとして、サントリーグループの「学び」のための社内プラットフォーム「寺子屋（TERAKOYA）」において、浮世絵版画の制作工程を紹介する実演をオンラインにて実施した。
また、本財団常設展示室において、平成９年 10 月から年数回第２土曜日に実施していた「浮世絵版画実演会」についても、すべて中止とした。

◆ サントリーグループ「寺子屋（TERAKOYA）」でのオンライン実演講座

・実施日程　令和３年９月 29 日 18 時～
・配信場所　本財団常設展示室
・講　　師　摺師：鈴木茉莉奈（アダチ版画研究所所属）
　　解説：中山周(本財団 理事)
・実施内容　摺師による浮世絵版画「北斎 神奈川沖浪裏」の摺実演と伝統木版画に関する道具や制作等の説明・質疑応答。
・参加者数　約 40 名

実演配信風景


Zoom のコメント欄で多くの質問がされる様子

2） 研修事業

木版画に強い関心を抱く一般の愛好家を対象として、初級技術の習得を意図した「職人に学ぶ木版画教室」は、実施回数、参加人数を減らすなど規模を大幅に縮小するとともに、会場のコロナウイルス感染対策を十分にしながら実施した。（2 クラスから 1 クラスへ。36 名の定員を 10 名へ縮小）

また、平成 26 年度より始まった②後継者育成事業の研修対象者を選抜することを目的としたインターンシップ型研修会については、コロナウイルス感染状況を踏まえ、本年度は、11 月に実施した。募集の告知は、本財団ホームページでの紹介、全国の美術系大学および専門学校や問合わせのあった個人に対して応募要項を送付するなどして行った。その結果３名の参加者に対して、財団側で用意した教材を使用し、摺の基本技術を高度技術者から習得する研修を実施した。面接だけでは判断できない各参加者の技能に直接触れることができ、②後継者育成事業の研修対象者の採用において有意義な研修会となった。実際に、本研修の参加者から第 25 期高度技術研修生を採用した。

◆ 「職人に学ぶ木版画教室」の骨子

・研修テーマ　伝統木版画の基礎的技術の実践（年賀状制作）
・日　　程　令和３年 11 月 27 日、12 月 11 日　計２回開催
・場　　所　本財団常設展示室
・参加人数　計 10 名（うち本財団賛助会員４名）
・研修講師　彫師：岸千倉(アダチ版画研究所所属)
　　摺師：鈴木茉莉奈(アダチ版画研究所所属)

彫師の実演風景

彫り指導風景

◆ インターンシップ型研修会

・研修テーマ　研修生対象者の選抜を目的とした伝統木版画の基礎的技術の実践
・日　　程　令和３年 11 月 29 日（１日間）摺のみ
・場　　所　本財団常設展示室
・参加人数　計３名
・研修講師　摺師：京増与志夫(アダチ版画研究所所属)

研修会風景

〈事業内容〉
（４）伝統木版画の制作技術等に関する資料の収集及び公開

④技術展示紹介事業

現在の常設展示室が木版画の総合施設として一般公開され、本年度で 17 年目を迎えた。開設以来、本財団が保存管理する復刻版木（総数約 1,200 点）と多数の文献資料について、その整理をするとともに、新たに伝統木版画の制作技術等に関する資料(道具・材料・制作工程等)の整備も行ってきた。その結果、より充実した形で常設展示が出来るようになり、伝統木版画に興味を持つ多くの個人や団体が常設展示室を訪れるようになっている。また、本年度も、教育機関、美術館および博物館などの文化施設で開催される浮世絵展にあわせて制作技術を紹介するために展示資料の貸出や体験用の版木制作の依頼を多くいただいた。
そして、本年度は、６月に企画展「北斎・広重の浮世絵に見るジャパンブルー ～渋沢栄一の生きた時代」を財団常設展示室にて開催した。その際、コロナ禍という状況を踏まえ、多くの方に本企画をお楽しみいただけるよう、初の試みとして、オンライン上でのバーチャルリアリティー(VR)展（日本語版／英語版）も実施した。また、②技術実演・研修事業での事業成果を発表する機会の一環として「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会を実施した。

◆ 展示品および資料の貸出し

浮世絵版画摺り順序、彫摺道具一式
・井上涼展 版画スリスリびじゅチュ館　東広島市立美術館（令和３年４月～６月）
・映画「HOKUSAI」紹介展示　岡田美術館（令和３年４月～６月）
・「港区浮世絵さんぽ」関連プログラム 港区郷土歴史館ギャラリー
（令和３年７月～９月）
・歌川広重保永堂版東海道五十三次展　掛川市二の丸美術館（令和３年 10 月～11 月）

井上涼展 摺り順序展示風景 東広島市立美術館

映画「HOKUSAI」紹介展示 岡田美術館

◆ **展示品制作依頼**

貨幣・浮世絵ミュージアム（令和３年 10 月）
掛川市二の丸美術館（令和３年 10 月）
独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター（令和４年２月）

歌川広重「庄野白雨」摺り順序・版木展示風景
貨幣・浮世絵ミュージアム

◆ **体験用版木制作依頼**

・城西大学水田美術館（令和３年４月）

＜常設展示室＞

東京都新宿区下落合３－13－17

◆企画展「北斎・広重の浮世絵に見るジャパンブルー ～渋沢栄一の生きた時代」

北斎や広重が活躍した時代の「青色」に注目し、現代においても私たちが日本のイメージカラーとして親しんでいる「ジャパンブルー」のルーツを、現代の職人たちが制作した鮮やかな復刻版浮世絵で迫る企画展を財団常設展示室にて実施した。またコロナ禍の状況を鑑み、バーチャルリアリティー(VR)展を日英２ヶ国語で公開した。

・実施期間　令和３年６月 22 日～８月 21 日
・実施場所　本財団目白常設展示室
・来場者数　約 150 名
・VR 展アクセス数　日本語 1,145、英語 202

展示風景

神奈川沖浪裏の制作工程展示風景

バーチャルリアリティー展画面

◆**「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会**

令和３年 11 月～12 月に開催された初級技術研修会「職人に学ぶ木版画教室」の参加者のうち 10 名の制作作品の展示を令和４年１月７日から令和４年１月 15 日まで本財団常設展示室にて行った。

〈事業内容〉
（５）伝統木版画の制作技術等に関する情報の提供及び刊行物の発行

⑤情報提供事業

当該事業は、業界団体・研究機関・一般団体等が主催する展覧会等からの各種資料の貸出し依頼、また一般からの制作技術等に関する問合せ及び相談等の要請に応え、情報センター的機能を果たすものである。近年、DVD「匠達の技」(和英二カ国語版)の放映依頼が国内外で開催される浮世絵展にあわせて多くなっている。これは、浮世絵制作技術に対する関心の高まりを示すものといえる。また、和英併記にて制作した財団紹介小誌を国内外の美術館へ配布することにより、本財団の活動への理解が促進された。
そして、本財団が展開する事業の成果や活動状況を賛助会員の他、広く一般にも伝えるために「財団レポート木版」が、令和３年７月に発行された。このレポートは、年度内に行われた事業報告を行うことを目的として作成され、収支計算書と併せて、財団常設展示室の来場者を中心に、一般にも無償配布を行った。これに加え、賛助会員の方々には、最新情報をリアルタイムでお届けするために、メールでの活動の報告も併せて実施することとした。

◆ **画像の貸出**

・株式会社ベネッセコーポレーション（令和３年４月）
・日本テレビ放送網株式会社（令和３年５月）
・清水書院（令和３年７月）
・株式会社 SDP 映画「HOKUSAI」（令和３年８月）他約 40 件

◆ **本財団ホームページ**

平成８年に開設した本財団のインターネットにおけるホームページでは、事業内容やその成果、伝統木版画に関する情報提供等を行ってきた。特に、情報センターや技術実演会への問い合わせの多くは、ホームページからなされ、事業活動の活性化にとって、大きな役割を担ってきている。そのため、また近年では、海外の美術館から浮世絵展開催にあたり制作に関する展示やDVD放映についてご依頼も増えており、海外の方の伝統木版技術への関心も高まっていることから、平成28年7月に和英二ヶ国語対応、スマートフォンに対応したサイトへ改編した。同時に、賛助会員の申込みをサイトから可能にしたことで、海外の賛助会員の獲得にもつながっている。

・ホームページURL　　http://www. adachi-hanga. com/foundation/

〈事業内容〉
（６）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

⑥木版画制作監修事業

当該事業は、伝統木版画の制作技術を高いレベルで維持・継承するために、浮世絵版画の復刻事業だけでなく、様々なジャンルのアーティストの方々に絵師となっていただき、彫師・摺師とともに新たな木版画の制作監修を行うことで、木版画の可能性を追求するものである。本年度は、現在進行中のプロジェクト「現代の浮世絵・国際創造事業」の参加アーティストとして世界で活躍される田名網敬一氏、花井祐介氏、ジェームス・ジーン氏の木版画制作を第一級の技術者によって実施した。また、賛助会員向けの進呈作品には、本財団主催の第11回アダチUKIYOE大賞の受賞者である池田和宏氏(大賞)、諸星朋子氏(優秀賞)に木版画のための作品をご提供いただき制作が行われた。

◆ **James Jean「Chrysanthemum」（令和３年６月･制作）**

・画面寸法：天地270㎜×左右360㎜
・制作担当：彫／岸千倉(アダチ版画研究所所属)
　　摺／岸翔子(アダチ版画研究所所属)

◆　**花井祐介「無題１」（令和３年８月･制作）**

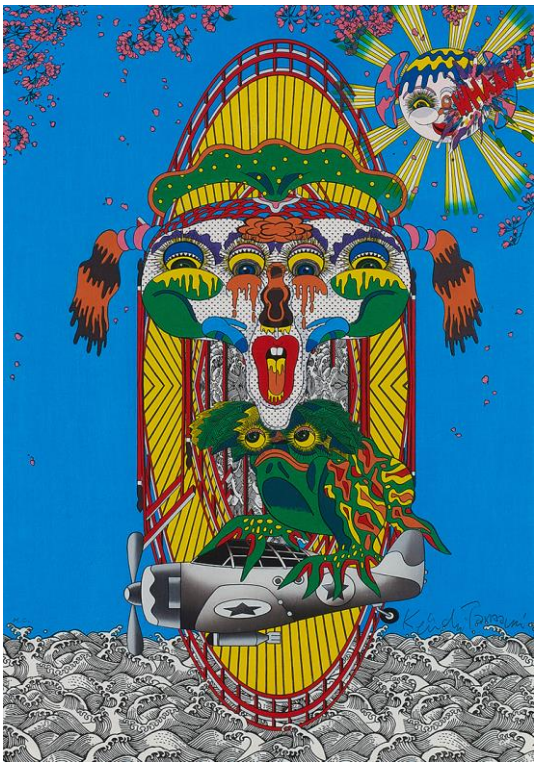
・額装寸法：天地 550 ㎜×左右 640 ㎜

・制作担当：彫／新實護允(アダチ版画研究所所属)
岸千倉(アダチ版画研究所所属)
長谷川博美(アダチ版画研究所所属)
摺／鈴木茉莉奈(アダチ版画研究所所属)
長沼翔太(アダチ版画研究所所属)

◆　**田名網敬一「また夢は始まる」（令和３年９月･制作）**

・画面寸法：天地 565 ㎜×左右 397 ㎜

・制作担当：彫／岸千倉(アダチ版画研究所所属)
摺／京増与志夫(アダチ版画研究所所属)



◆　feebee「寿という獣　寅」（令和３年 12 月･制作）

・画面寸法：天地 230 ㎜×左右 230 ㎜

・制作担当：彫／長谷川博美(アダチ版画研究所所属)

摺／鈴木茉莉奈(アダチ版画研究所所属)

第 11 回アダチ UKIYOE 大賞 大賞

◆　池田和宏「Astro Girl」（令和３年 12 月･制作）

・画面寸法：天地 348 ㎜×左右 230 ㎜

・制作担当：彫／新實護允(本財団 評議員)

長谷川博美(アダチ版画研究所所属)

摺／長沼翔太(アダチ版画研究所所属)

第 11 回アダチ UKIYOE 大賞 優秀賞

◆　諸星朋子「金魚すくい」（令和３年 12 月･制作）

・画面寸法：天地 336 ㎜×左右 230 ㎜

・制作担当：彫／長谷川博美(アダチ版画研究所所属)

摺／鈴木茉莉奈(アダチ版画研究所所属)

藤代果乃女(アダチ版画研究所所属)

令和３年度事業報告書　附属明細書
（自 ： 令和３年４月　１日）
（至 ： 令和４年３月 31 日）

令和３年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施工規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

公益財団法人　アダチ伝統木版画技術保存財団

収　支　計　算　書（案）

令和３年度